

目次

□巻頭言	ダム特集に際して.....川崎 精一	1
□座談会	ダム工事の現況と将来.....	2
□ダム工事の変遷	多目的ダムの変遷.....黒田 晃	16
	発電用ダムの変遷.....鈴木 篤	21
	農業用ダムの変遷.....石川 明	25
グラビヤ—ダ ム い る い ろ		
	コンクリートダム用建設機械の変遷.....坪 質	31
	アースダムおよびロックフィルダム用建設機械の変遷.....郡 晃	37
	取水および放水装置の変遷.....武市 英雄	51
□随 想	ダム建設機械化の思い出.....阪西 徳太郎	60
	回転式舗装試験機の概要.....伊瀬 達彦 英夫 薫	62
	液漂船による道路土工用土砂の採取.....三浦 進 浦津 義弘 小 義由 治	66
	建設機械用タイヤの粘性土に対する走行性能に関する研究.....藤本 義二 本 忠	71
□建設機械化講座 第91回 現場フォアマンのための土木と施工法 XVI. 機械化施工の安全指針	8. 道路工事における機械運転と近接作業.....鈴木 康一	78
□建設機械化研究所抄報	試験研究報告 (No. 70).....建設機械化研究所	81
□文献調査	製品デザインの工作過程 (建設機械の設計).....調査部会 文献調査委員会	86
	エルスキン橋の架設.....調査部会 文献調査委員会	88
□資料紹介	高層建築に使用されるクレーンの傾向.....編集部	90
	前関西支部長玉井正彰君の死を悼む.....最上 武雄	92
	ニニ—ズ.....(編集部)	93
	行事一覧.....	94
	編集後記.....(杉田・水野)	96
	既刊目次一覧	

◀表紙写真説明▶

東京電力・奈川渡ダム

施工：鹿島建設株式会社

奈川渡ダムは高さ155m、堤体積708,600m³のドームタイプ・アーチ式ダムで、梓川開工工事の中核をなすものであり、安曇発電所はダム下流直下に自流式2基、211,000kW、下流右岸に揚水式発電機4基412,000kWの出力をもつ東洋一の規模の発電所である。

昭和39年9月着工以来施工した主要工事数量は明り、トンネルを含めた総掘削量187万m³、コンクリート量116万m³にも及び、岩盤基礎処理に費したボーリング工の総延長は16万4,000mに達した。ダム本体コンクリートは昭和43年末打設完了、昭和44年3月湛水を開始し、現在ダム本体はもうらんのこと、大規模な基礎処理工事を要した両岸からの懸念された漏水も少なく、また上部を弾性数値の乏しいホルンヘルスに接するダムの挙動も安全側に順当な動きを示している。

一方安曇発電所は昭和44年5月末より一部営業運転を開始し、現在すべての発電機が操業され、近年のめざましい経済成長に伴う電力需要の急速な伸びに対処している。